

座間市市民協働課(4条関係)
 令和5年4月10日受付
 第 号

相互提案型協働事業実施報告書

令和5年 3月 31日

(宛先) 座間市長

団体 住所 座間市
 名称 社会福祉法人 足跡の会
 代表者名 理事長 溝渕信一
 市 担当課名 福祉部 生活援護課
 所属長 課長 藤井宏昌



次のとおり報告します。

1 事業名	無縁遺骨を縁のある遺骨に変え適切に埋葬する事業
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	令和3年度選考 (令和4年度実施)
4 報告期間	令和4年 4月 1日 から 令和5年 3月31日 まで
5 事業費	506,400円 (うち座間市支出分 500,000円)
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	A4チラシの配布の成果もあり、年度初めより単身者の方からの問い合わせや相談依頼があった。自身が亡くなった後の葬儀代の相談が一番多く、そこに付随してお墓の話になる事が多くあった。担当課の窓口でも相談者にはチラシを渡してもらったのでその後の相談に結び付く事例もあった。無縁遺骨についてはやはり亡くなった後では親族もなかなか引き取ってもらう事が出来ずに、収蔵については予定の10柱に達してしまった。収蔵場所の清掃ボランティアの方には、今回も多くの方が合祀墓地に収蔵されたことを伝えながら、ご自身や周りの方に無縁遺骨問題を改めて考えて頂く機会を作ってもらえるようお願いができた。清掃を通じて、無縁であってもいつ縁のある方がお参りしても良いように墓地清掃にも力が入ったと考えている。周知については担当課窓口や当法人の窓口、地域包括支援センターの力をお借りし、コロナ禍にあってもできる範囲で行うことが出来たと考えている。
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	無縁遺骨を縁のある遺骨に変え適切に埋葬する事業
-----	-------------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	無縁遺骨になる可能性のある単身者や生計困難者との対話や相談等・問題を共有することが出来、目的は達成できた。	当初、想定した内容については、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分にはできなかった。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	リーフレットの配布や、座間市との協働により相談の間口も広がり相談者は増加した。 合祀墓地清掃ボランティアについては年間を通じて合祀墓地の必要性を説明し、無縁遺骨の存在についても事の重大さを理解してもらうことができた。 また個別相談の場でも無縁になる可能性のある方に一定の理解を求める事が出来た。	パンフレットを活用したPRによって、より多くの市民に事業の目的を周知できた。

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	担当課とは同課が行う支援調整会議でも相談数や内容の確認を行っていた。 また、同課を訪れた相談者を効果的に案内することが出来ていたと考えている。お互いに役割を理解し共通の認識のもと事業を行うことができた。	計画段階から、事業目的や課題に対する共通の認識を持っている。

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	<p>情報は常に共有できたと考えている。</p> <p>常にお互いの得意分野を理解していると感じられたので、問題なく進行できた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、適宜、計画の見直しを行った。</p>
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	<p>常に対等であったと考えている。</p>	<p>対等な立場で協議できた。</p>
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	<p>理解し補える関係を築けた。</p>	<p>立場、特性を理解し、補える関係が築けている。</p>

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割)</p> <p>対象者との直接相談 対象者との電話での相談 合祀墓地での清掃活動を通じた他人事ではない問題であることの周知 無縁遺骨の預かりからの合祀埋葬</p>	<p>(市の役割)</p> <p>庁内、関係機関との調整 相談者への周知</p>

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適 正 さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	適正であった。	適正であった。
実 施 結 果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	担当課から紹介を受けた方への相談業務を始め、無縁遺骨の埋葬からその埋葬墓地での勉強会を含めた清掃活動など、役割は十分に果たせた。	新型コロナウイルス感染症の影響で、十分に果たせたとはいえない。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	それぞれ専門性が高く、故にそれぞれに得手不得手を理解し1人の相談者をお互いに支え、単独以上の効果を感じてもらえたと考える。	成果を上げることができた。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	<p>(団体の考え)</p> <p>協働事業ではなくなるが、同じような報告・連絡・相談業務が行えることを望んでいます。次年度以降も効果的にリーフレットを配布したり、お互いの相談者の誘導も行っていきたい。引き続き課題や問題点を出し合える立場でいたい。そして無縁遺骨問題を始めとする、様々な問題に取り組んでいけるよう願っている。</p>	<p>(市の考え)</p> <p>居住支援の事業などと連携し、より生活困窮者支援や市民生活に密接した事業展開が望ましい。</p>